企画・制作／新日本海新聞社営業事業局広告課

未来（あす）に羽ばたく 鳥取福祉会新聞

5月31日(木)
2018(平成30)年

子どもからお年寄りまで地域に暮らす人々に寄り添う福祉事業を展開する鳥取市の社会福祉法人です。一人一人の人権を尊重し、健全な育みを支援するため、サービスの質向上、職員のレベルアップには特に力を入れています。地域の信頼を得られる活力ある法人経営に努めています。

私たちがご案内します！

「特別養護老人ホーム若葉台」介護士(7年目)
竹本 健太さん(27)
■出身地：鳥取市

「わかば台保育園」保育士(2年目)
上杉 瑠美さん(24)
■出身地：鳥取市

ともに生きる社会実現へ

地域の福祉充実を目指して

40年前に設立した鳥取福祉会は保育園の開設からスタートし、現在鳥取市内10カ所の保育園を運営しています。一方、高齢化に伴う福祉介護サービスの需要にも応えるべく、1991年に老人福祉施設を開設。以後、デイサービスから小規模多機能型事業所まで、高齢者福祉分野の事業も展開。2016年には保育園と高齢者向けデイサービスの機能を持つ「幼老複合施設」も始めるなど、先駆的な取り組みも進めています。

利用者の満足度を上げるため、法人が力を入れているのが〝人財〟育成です。その背景にあるのは、利用者の満足度は職員のサービスの質に直結するという考え方。スキルアップや専門性追求につながる研修の積極参加、給与体系や休暇など福利厚生の充実、育児に配慮した勤務体系構築など、掛け声やパフォーマンスに終わらないワークライフバランスの実現に、正面から取り組んでいます。

明るく働いてレベルもアップ

利用者さんの気持ちがすんなりくみ取れた時はうれしいです

私は「特別養護老人ホーム若葉台」で介護福祉士として働いています。この職場の自慢は人間関係のよさ。自分の目指す介護が思い通りに届けられないこともあって落ち込む日もありますが、上司や先輩、同僚の明るさに助けられ、また笑顔で利用者さんに向き合えます。

一昨年、鼻腔からのたん吸引などの医療行為ができる「認定特定行為業務従事者」の資格を取得し、できる介護の幅を広げました。もちろん研修中は少なくなった職員で現場を回すことになりますが、最先端の知識や技術習得を持ち帰ってくれれば、結果的に現場のためになります。

上司や先輩、同僚の明るさに支えられながら介護の仕事と向き合う

私は保育園に通う3歳の長男がいます。体調不良の際は、私が休暇を取って迎えに行くこともありますが、そんな時も快く送り出してくれる同僚ばかり。キャリアアップでもプライベートでも「お互いさま」の気持ちを持つ風土の下、毎日変化のある仕事と向き合っています。

時代のニーズ捉え 地域福祉を充実

体力勝負だけど、子どもたちの笑顔に癒やされています

子どもたちの成長を日ごとに感じられる喜びは保育士ならではのやりがい

理想の保育士、社会人に近づける

運営する保育園の一つ、わかば台保育園は私の職場。今、先輩の先生方と2歳児クラスを担任し、学びを深めつつ取り組んでいます。新人保育士には年齢の近い先輩が教育係として就く仕組みがあり、不安や疑問をすぐに聞いて解消できて心強いです。

あいさつにトイレ、友達との接し方と、子どもの成長を目の当たりにできるやりがいは何にも代え難いものがあります。若手からベテランの先生まで、明るく楽しい雰囲気で毎日働けています。

法人が力を入れる職員の処遇改善で、休日や連休も交替でしっかり取れます。私も先日、友人と韓国旅行を楽しんだばかり。ここは各自が思い描く保育士や社会人像に、どんどん近づける環境を作ってくれる職場です。

今後も地域の皆さんに寄り添えるメニューや施設を、法人全体で考えていきます

保育園と高齢者向けデイサービスの機能を持つ幼老複合施設も開設。保育と介護の両分野のノウハウを最大に発揮

コラム

2025年の日本、団塊世代が後期高齢者となり、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という超高齢社会を迎えます。社会保障費は枯渇寸前、しかも福祉業界全体の採用難には、閑古鳥もあきれて鳴きません▼福祉の仕事は価値ある仕事です。確かに苦労はありますが、その何十倍もの達成感を味わえます。誰かの力になるといった自己有用感は、自らの存在意義を確認できる基盤となります。そして「これでいいのだ」と日々を楽しみ、自己肯定感を高めることにつながります▼加えて公正なキャリアアップの仕組みや給与体系があれば、「この職場がいい」になるでしょう。私たちはそんな職員であふれる法人を本気で目指しています。（拓心）

笑顔の職場づくり、続けます

松下 稔彦 理事長

若手、ベテランともに使命感を持って笑顔で働くことがなぜできるのか。ワークライフバランスとキャリアアップの融合にその答えの一つがある気がします。どちらも諦めさせたくないと、制度設計を積み上げてきました。それでも100％ではなく、必要な環境整備は時代とともに変わるでしょうが、将来、皆さんの誰かが私たちの仲間になってくれたときも〝笑顔で働く〟をぶれずに追いかける法人でいたい。そう思っています。

クイズの答え：ワクワクドキドキウォーク。鳥取福祉会の情報誌「ワクワクドキドキ」にちなんで名付けられました。「笑う門には福来る」を合言葉に毎年10月に開催。

VOL.20

社会福祉法人 鳥取福祉会

鳥取市的場2丁目1
TEL 0857-51-7272
FAX 0857-51-7273

鳥取福祉会 検索

設　　立／1978年7月
代　　表／理事長　松下稔彦
事業内容／高齢者福祉施設、保育園、母子生活支援施設、障がい者福祉施設など社会福祉事業の運営管理、介護福祉サービスの提供
職 員 数／676人（2018年5月現在）

法人の主なあゆみ

1978年7月	▶法人設立
1979年4月	▶むつみ保育園・かんろ保育園開設
1980年1月	▶鳥取通所授産所（うぶみ苑）開設
1995年4月	▶養護老人ホーム鳥取市なごみ苑受託経営
1999年12月	▶特別養護老人ホーム若葉台開設
2002年4月	▶母子生活支援施設の受託経営
2016年1月	▶保育園・デイサービス複合施設開設
2017年4月	▶小規模多機能型居宅介護施設、認知症対応型共同生活介護施設開設

クイズ 鳥取福祉会 編

Q 質問　鳥取福祉会が毎年秋に開催する恒例行事「健康ウォーク」の大会名はなに？

答えはこの広告のどこかにあるよ！

創刊135年 地域をつないで in June 2018

日本海新聞 創刊135周年 **特別紙面企画** 「未来（あす）に羽ばたく 山陰の会社新聞」

鳥取県内の次世代を担う高校生や大学生、またその保護者の方々へ、地元で活躍する企業とその仕事内容をPRする企画。若手社員の方々に協力いただき、業務内容などを紹介していきます。